

「みんなで学び合うあかまつ班活動」

「はい、はい、はい。」
このリズムやで

「跳べたなあ。今度は、一人で跳んでみる？」高学年が声を掛け、大なわとびで、低学年が一人で跳べるように、手をつないで跳んだり、跳び方を教えたりしています。跳べるようになる、みんな喜び合い、今度はもっとたくさん跳べるよう励まし合っています。これは、あかまつ班で取り組む朝運動の様子です。

西 本梅小学校は、1学級が10人前後の少人数で毎日同じ集団で過ごすので、友だちに対する見方が固定的になったり、集団が変わると自分の意見をなかなか言えなかったりするなどの面があります。そこで、1年間を通してあかまつ班という異年齢集団の活動を大切にやり組んでいます。班編成は年2回行い、少しでも多くの人との関わりを広げるようにしています。この班での取り組みは、あかまつ遠足、清掃活動、朝運動、班遊び、運動会、生活体験学校、なわとび大会などです。中でも生活体験学校は、全校児童が、るり溪少年自然の家を中心に2泊3日

の宿泊学習をする本校独自の取り組みです。自然の家での生活は、班ごとにします。高学年がリーダーになり、意見を出し合い話し合ったりして活動や目標を決めたり、みんなで協力して声を掛け合い、自律的に行動したりしています。

こ のように、班の活動を通して、全校児童が、お互いにより深く関わり合い、理解を深めていき、あらためて友だちの良さを知ったり、リーダーとしてよく考え、正しく判断し行動する高学年の姿から学んだりしています。一人一人の良さを認め合い、支え合い、互いに尊重し合い、人権を大切にすることに成長してほしいと願っています。



▲あかまつ班の朝運動で大なわとびの練習を頑張る児童

(南丹市立西本梅小学校)

人権教育主任 中野 信枝

環・境・市・民

感激!

「工」発見

工コちゃん

—第14回—

市内で発見した感激の工コ活動を紹介します。

国道372号を亀岡に向けて走っていると園部町若森で右手に少し変わった風車が回っているのにお気づきですか。

これは九州大学で10年間の研究により開発された「風レンズ風車」です。羽根の周りに「デイフューザー」と呼ばれる覆いがあり、この覆いが風を増速させる働きをして、従来の風車に比べて2〜3倍の発電量を得ることが出来ます。また、騒音やバードストライク



(鳥の衝突事故)などの問題点も解決し、風車の大きさもかなり小型化されています。

今回の工コミスト

有限会社共立機工(園部町若森)
代表取締役 岩永康弘さん



「風レンズ風車」普及のために風況調査から

風車設置までを行う有限会社共立機工。岩永康さんは7年前、精密機械の部品加工業を営みながら、もつと社会に貢献している手ごたえのあるビジネスを求め模索していました。そんな時「風レンズ風車」を知り、ブレードの加工や設計ができるかもしれないと考え、今まで関わったことがなかった環境という分野に飛び込み、九州大学の開発に携わることになりました。

岩永さんの夢は南丹市からこの風車を全国へ広めること。「将来は市内各所に風車を設置し、世界的問題となっている二酸化炭素削減の一端を担えるよう、努力したいです。未来へすばらしい自然環境が残せるように、まずは南丹市のいい風探しから始めます」

(環境課)